

## タカセガイの2次放流手法開発

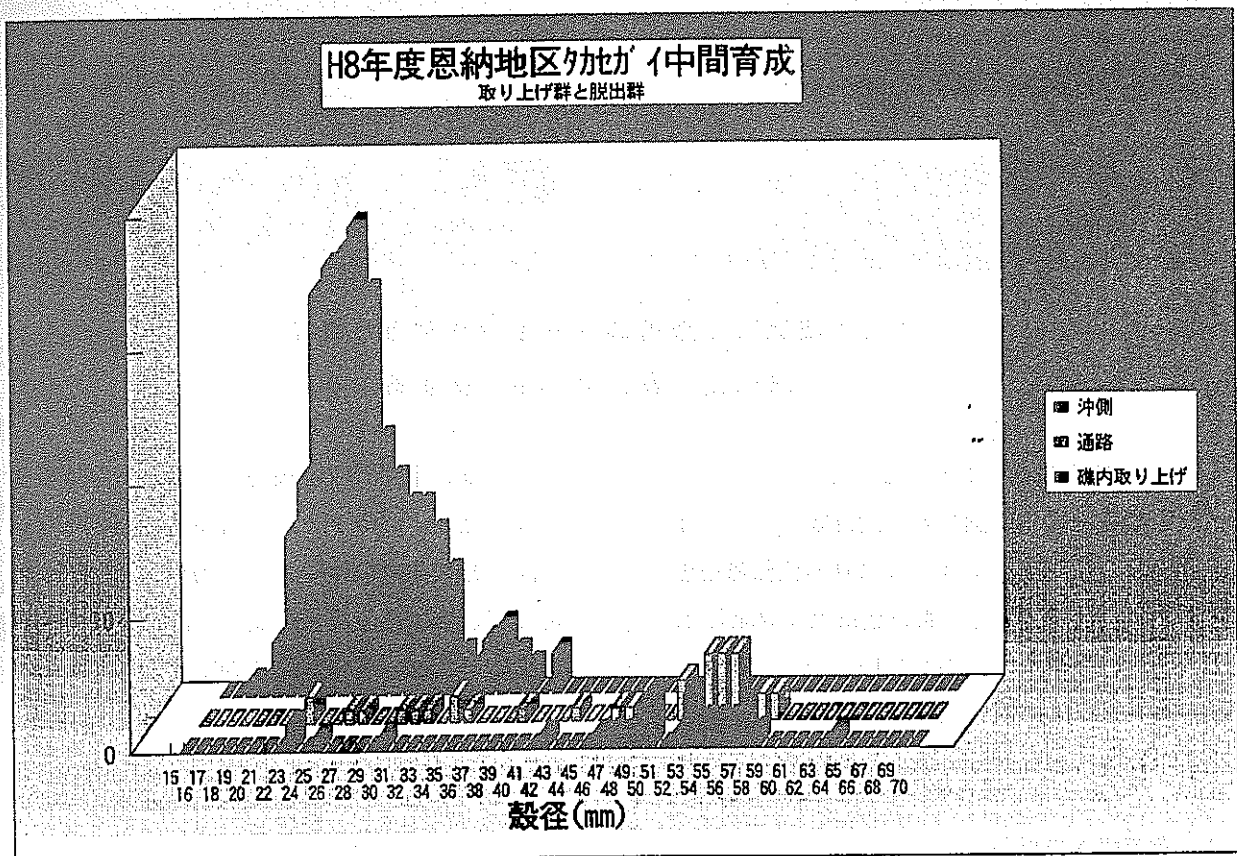
担当者 平手康市

### 1. 実績と評価

平成7年11月10日および平成8年1月24日に栽培漁業センターにおいて種苗生産されたタカセガイ約20万個（平均殻径6.15mm）を恩納村屋潟湾原地先に設置されているタカセガイ中間育成礁に1次放流した（中間育成の経緯については地域普及活動に報告）。これを平成8年10月

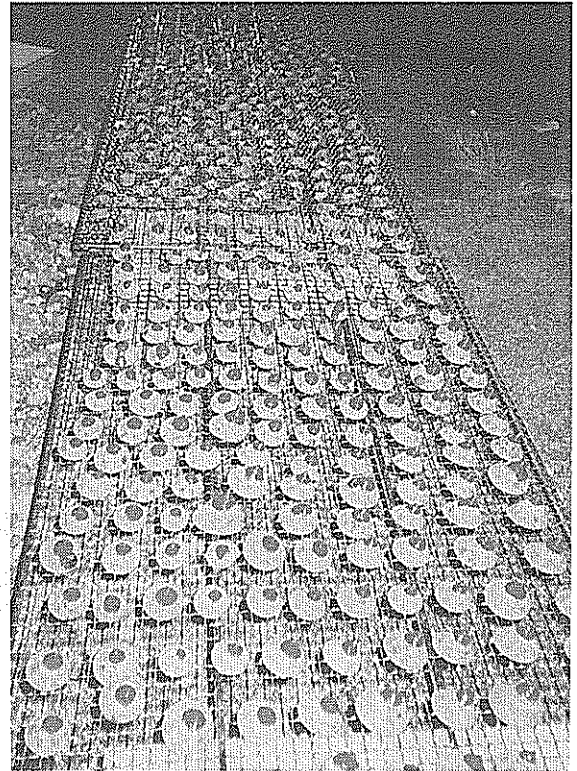
24日に恩納村漁協組合員の協力を得て中間育成礁より中間育成タカセガイ種苗約6万個（平均殻径25.40mm、平均重量5.35g、 $n = 300$ ）を取り上げ、同村地先海域3地点に約2万個ずつ放流した（図1）。

図 1



今回の放流方法は、船上からの礁斜面の浅い部分に船上から投入する手法を採用した。また、放流種苗追跡の予備実験として、水産試験場八重山支場においてヤコウガイの追跡調査に用い

られている、着色FRP樹脂による螺塔の拡張部分を標識する手法で中間タカセガイを標識した(写真下)。



2次放流追跡調査用のマーキングタカセガイ  
(風乾後；左、マーキングする；右)

今回の試験放流には、赤色標識(約800個)と黄色標識(約900個)の中間育成タカセガイを用いた。これを潜水作業により赤色標識を礁斜面の浅い部分、黄色標識を礁原上に放流した。その後、追跡調査は実施していない。しかし、採貝漁業者からの聞き取りでは、殻径約6cmのタカセガイを漁場でよく見かけるそうである。

これらは、中間育成場周辺に見られる育成後1ヶ年(2.5才)のタカセガイの殻径に相当し(図2)、2次放流の1つの効果と考えられる。従って、2次放流海域において詳細な追跡調査を実施すれば、その効果を判定することも可能である。

## 2. 次年度への展開

2次放流後のタカセガイの成長は予想より速いと考えられる。この事は水産試験場八重山支場で行われているヤコウガイの放流追跡調査からも推測されている(渡辺主任研究員私信)。また、漁場には放流後1ヶ年を経過したと考え

られるタカセガイが確認されているので、恩納村の中間育成タカセガイ放流海域において詳細な追跡調査を実施すれば、中間育成放流の効果を把握できるものと予想される。

図2 恩納村沿岸漁場図(魚介類)

- タカセガイ保護区
- タカセガイ、ヒロセガイ、ササエ、イセエビ取捕漁場
- シヤコガイ養殖漁場
- 貝類生業養殖漁場
- 魚類生業養殖漁場

中間育成タカセガイ放流海域

タカセガイ中間育成場

追跡放流試験実施海域

